

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
 分担研究報告書

札幌地区における肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップに関する研究
 研究分担者：小川浩司 北海道大学病院 消化器内科

研究要旨：札幌市で行っている肝炎ウイルス検査の陽性者に対してフォローアップ事業を開始した。フォローアップへの同意を得た陽性者に対して調査票を送付し、その後の診療状況を解析した。2014年度より調査を開始したが、2015年度後半から調査方式を簡便化し、回答率の向上を達成できた。肝炎ウイルス陽性者の68%が病院を受診したが、その中で肝臓専門医を受診したのは40%であった。その後定期的に経過観察しているのは55%であり、今後更なるフォローアップが必要と考えられた。

A. 研究目的

肝炎ウイルス検査陽性者において肝臓専門医療機関の受診はB型肝炎(HBV)58%、C型肝炎(HCV)76%と低く、さらに受診したHCV陽性者のうち34%しかインターフェロン治療を受けていないことが判明している。ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法は劇的に進歩した。HBV感染には核酸アナログ製剤、HCV感染に対しても直接的抗ウイルス薬によるインターフェロンフリー治療が導入され、適切な治療を受ければウイルス制御は可能になりつつある。

厚生労働省では平成26年度より、肝炎ウイルス陽性者を早期に発見するとともに、相談やフォローアップにより陽性者を早期治療につなげることを目的とした「ウイルス肝炎検査等の重症化予防推進事業」を行っている。それと同時に、厚生労働省肝炎等克服政策研究事業として「効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究」を開始した。

札幌市では平成22年度より無料肝炎ウイルス検査を実施しており、毎年4-5万人の検査を実施している(図1)。

図1 札幌市肝炎ウイルス検査実績表

年度	B型肝炎ウイルス検査			C型肝炎ウイルス検査		
	実施数	うち陽性	陽性率	実施数	うち陽性	陽性率
22	54,412	672	1.24%	55,396	180	0.32%
23	48,644	561	1.15%	49,221	169	0.34%
24	40,369	365	0.90%	40,938	128	0.31%
25	43,865	422	0.96%	44,556	115	0.26%
26	41,519	290	0.70%	42,086	80	0.19%
27	38,890	284	0.73%	39,445	57	0.14%
平均		陽性率	0.95%		陽性率	0.26%

札幌市の肝炎ウイルス検査陽性者の追跡システムを構築し、陽性者を適切な治療に導くことを目的として本研究を開始した。

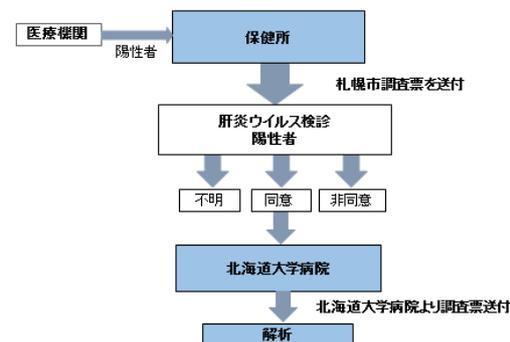
B. 研究方法

研究対象：2014年4月から2016年6月までに札幌市が行う肝炎ウイルス検査にて、本研究への情報提供に同意したB型およびC型肝炎ウイルス検査陽性者。

研究・調査項目：

前半(2014年4月～2015年10月)は札幌市保健所から、肝炎ウイルス陽性者へ、「札幌市の医療機関の受診状況に関する調査票」と共にパンフレットを郵送した。肝炎ウイルス陽性者には、調査票に本研究への同意の有無を記入の上保健所に返送、同意を得た陽性者の情報を札幌市保健所から北海道大学消化器内科に提供していただいた。その後、同意を得た陽性者に対して、北海道大学から調査票を送付した。その調査票に受診状況、さらに治療状況を記入後返送していただき情報を解析した(図2)。

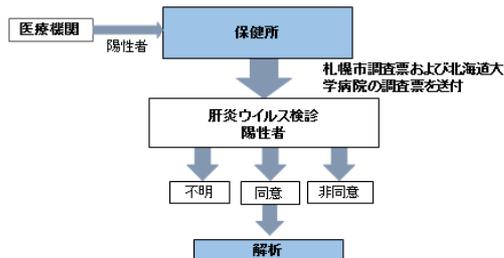
図2 前半の研究方法



後半(2015年11月～2016年6月)は直接札幌市保健所から、受診勧奨用のリーフレットと

共に、肝炎ウイルス陽性者に本研究の調査票を送付していただき、同意を得た陽性者からの調査票を札幌市保健所に返送していただくこととした。その後札幌市保健所にて匿名化し、北海道大学病院消化器内科へ情報を送っていただき解析した(図3)。

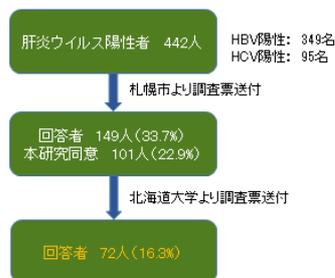
図3 後半の研究方法



C. 研究結果

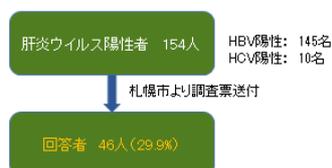
前半は肝炎ウイルス陽性者 442 人 (HBV349 人、HCV95 人) で、札幌市からの調査票への回答者は 149 人 (36.9%)、更に北海道大学からの調査票への回答者は 72 人 (16.3%) から回答を得た(図4)。

図4 前半の回答状況



後半は肝炎ウイルス陽性者 154 人 (HBV145 人、HCV10 人) で、調査票への回答者は 46 人 (29.9%) と向上した(図5)。

図5 後半の回答状況

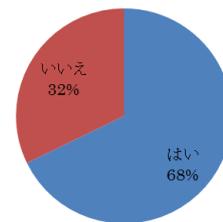


回収した全体のアンケート結果は以下のとおりであった。

1) 肝炎検査陽性後、病院を受診したか?(図6)

はい 68%
いいえ 32%

図6 肝炎ウイルスの感染の可能性が高いと判定された後に病院を受診されましたか?



2) Q1で「いいえ」の方に、受診していないのはなぜか?

行く必要がないと思っていた 28%
行く機会がなかった 26%
どこに行けばよいかわからない 23%
その他 23%

3) Q1で「はい」の方に、受診先はどこか?

かかりつけ医 39%
かかりつけ医以外の病院 47%
その他 14%

受診したのは肝疾患専門医療機関か?

はい 38%
いいえ 42%
わからない 20%

診てもらったのは肝臓専門医か?

はい 40%
いいえ 28%
わからない 32%

受診先の病院での診断は?

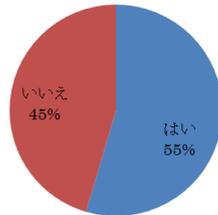
肝機能は異常なし 57%
肝機能若干以上あるが問題なし 13%
慢性肝炎 19%
肝硬変 5%
肝がん 1%
その他 5%

4) 現在治療や経過観察のため通院しているか?(図6)

はい 55%

いいえ 45%

図7 現在肝臓の治療や経過観察のために通院していますか？



- 5) Q4で「いいえ」の方に、理由は
- | 理由 | 割合 |
|-------------|-----|
| 医師に必要なと言われた | 46% |
| 自分から通院をやめた | 8% |
| その他 | 46% |

D. 考察

札幌地区における肝炎ウイルス陽性者は平成29年度においてHBV0.74%、HCV0.14%であり、B型肝炎が圧倒的に多く、経時的には肝炎ウイルス陽性率は低下傾向であった。平成26年度より本研究を開始したが、受診勧奨のリーフレットの配布、調査形式をより簡素化することにより回答率は前半16.3%から後半29.9%へと大幅に向上した。

アンケートの解析では肝炎ウイルス陽性者の68%は医療機関を受診していたが、肝疾患専門医療機関、肝臓専門医を受診していたのは40%程度と低率であった。HBV陽性で肝機能障害のないB型非活動性キャリアが多いと推測されるが、回答者の45%は定期通院をしていなく、さらに担当医師から通院の必要ないと言われていることも多かった。

今後は肝炎ウイルス検診陽性者に対して追跡調査を実施することにより、その後の診療状況について解析する必要がある。さらに、陽性者に対する受療、定期的な経過観察を促進するためには、陽性者の動向把握だけでなく、かかりつけ医をはじめとする非肝臓専門医への積極的な啓蒙活動が必要と考えられた。

E. 結論

札幌市における肝炎ウイルス検査陽性者に対する調査では、32%は病院を受診していなく、受診後も定期観察されていない症例が多かった。今後も陽性者に対する追跡調査を継続して行い、肝炎ウイルス陽性者を受診、受療へと結びつける活動を継続していく。

F. 研究発表(本研究に関わるもの)

論文発表

該当事項なし

学会発表

- 1) 小川浩司, 梅村真知子, 出水孝章, 伊藤淳, 常松聖司, 佐藤史幸, 中井正人, 荘拓也, 須田剛生, 森川賢一, 坂本直哉. 当院における院内肝炎ウイルス陽性者の動向調査. 第19回日本肝臓学会大会. 2015年10月9日
- 2) 小川浩司 荘拓也 坂本直哉. 肝炎ウイルス陽性者アラートシステムによるC型肝炎受診率向上効果. 第41回日本肝臓学会東部会. 2016年12月8日

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当事項なし
2. 実用新案登録
該当事項なし
3. その他
該当事項なし